

ドレッサージュホースに育てよう!



オースミイレブンは、3月に M クラスデビューを果たし、60%を超えるスコアを獲得して優勝しました。しかし、相変わらず多くの課題が残り、今後に向けて山積みの宿題を出された気分です。

リズムの乱れ、イレギュラー、アンイーブン、移行の乱れ、踏歩変換などなど。今後も皆さんを巻き込んで一緒に考えていきましょう! (笑)

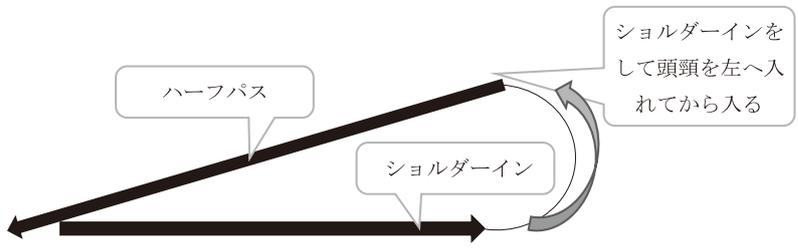
◆ ハーフパス (Part II)

ハーフパスは、難しい運動ではないことを既に述べました。私は、講習会などで初めて乗る馬に対してもハーフパスを試します。ハーフパスを1度も経験をしたことがない馬であってもトライします。そして、大抵の馬は初めてであっても上手にハーフパスをします。騎手が正しい扶助を持ち、それを馬に伝えることができれば、馬は何も考えることなく歩みをハーフパスに変えていくのです。

トレーニングパターン① (左手前)

ショルダーインで十分に内方姿勢をとりベンディングを確認しつつ、肩を柔軟に動かしておきます。ショルダーインでとった内方姿勢を維持したまま輪線に乗り、斜線上ハーフパスに入る直前にショルダーインを1、2歩してからハーフパスに入ります。私が考えるスタンダードなハーフパスのトレーニングパターンです。

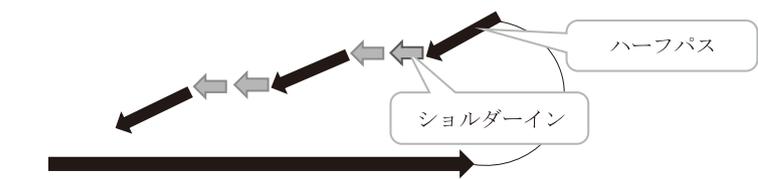
ショルダーイン → 半巻乗り → 斜線ハーフパス



トレーニングパターン② (左手前)

この運動は、正しいベンディングを保ったハーフパスがうまくいかないときに利用します。ハーフパス前に作った正しいベンディングラインを保ちながらハーフパスをしても、横へ進むに連れてその姿勢が崩れてくることがあります。その場合、そうなる前にハーフパスを一旦止めてショルダーインを入れて正しいベンディングラインを再生します。そしてまたハーフパスを数歩で構わないのでトライします。ハーフパス、ショルダーイン、ハーフパス……それらを繰り返すことによって馬の体勢が安定していきます。

ショルダーイン → 半巻乗り → 斜線ハーフパス →
ショルダーイン → ハーフパス……

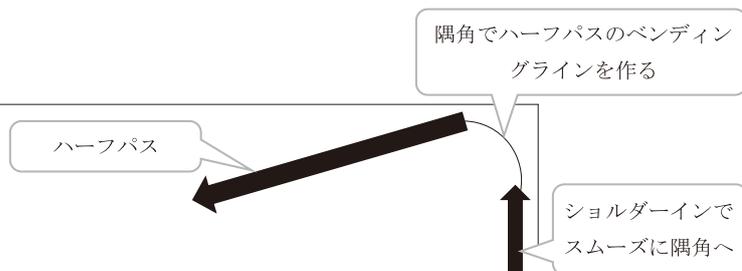


トレーニングパターン③ (左手前)

ハーフパス自体が安定してくると、最終的には隅角から、または巻乗りからセンターラインに向かってハーフパスをする図形をトレーニングパターンとしてルーティンにします。

常に注意すべき点は、隅角でとった内方姿勢のベンディングラインをそのままハーフパスに活かします。巻乗りからであれば、巻乗りの最後の4分の1はハーフパスの体勢を意識しておく必要があります。

隅角でハーフパスのベンディングラインを作る



☆後駆先行型の失敗例

最も多いハーフパスの失敗例として挙げられるのが、後駆先行型です。その失敗例の原因は、騎手がハーフパスをさせようとするあまり、外方脚を強く使い横へ進ませようとしてしまうからです。それによって馬は必要以上に後肢がクロスすることになり、後駆が前駆を追い越してハーフパスをしてしまうこととなります。

解決するには、外方手綱を押すように使って馬の肩（前駆）を先行させ、外方脚の使う割合を大きく減らします。こうした騎手の扶助の加減によって、馬の体勢を変えることができることがわかるはずです。ハーフパスの馬の体勢は、騎手の加減次第ですので、是非そのチューニングを正しく合わせて行うようにしましょう！

☆左右非対称

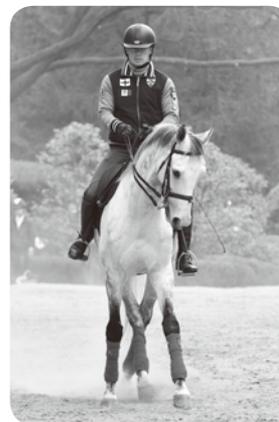
左右対称にハーフパスができる馬はほとんどいません。オースミイレブンも右手前になると屈曲がしにくく、横へ進みにくいという癖があります。そのため騎手が左手前よりもサポートを強くして扶助を送るようにしています。そうすることにより、外見上は左右対称の馬に見えるようにしています。これが騎手の役割です。その馬の特徴を捉え、左右共に正しいハーフパスができるようにしていきます。

☆ハーフバスターニングにおける注意点

「横に行く角度は犠牲にしても、馬体のベンディングは犠牲にするな！」

これは、私が勝手つくった格言で、ハーフパスをするときいつも頭に浮かんでいる言葉です。横に進むことに集中し過ぎると、馬はベンディングとインパルジョンを失ってしまいます。もちろん横にほとんど進まない馬の場合は適応しません、その場合はベンディングを犠牲にして斜め横歩をして横へ進ませることをする場合もあるからです。

しかしながら最終的には、正しい体勢のハーフパスをするにはこうした拘りを持って行うべきだと思っています。



◀正しいベンディングラインはハーフパスの基本！